

2021年12月24日 第147回運輸政策コロキウム バンコクレポート
～スタートアップシリーズその3～

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、年の瀬でご多用の中にもかかわらず、多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日の運輸政策コロキウムが、当研究所による今年最後の催しとなります。

さて、本年4月1日にタイ王国バンコクに開設した、当研究所の2か所目の海外拠点である「アセアン・インド地域事務所」、AIRO（アイロ）から、開設以来の活動を通じて得られた情報や知見を皆様にお届けするこの「バンコクレポート・スタートアップシリーズ」も、10月の観光、11月の航空に続き、本日が第3弾となりました。

本日のバンコクレポートでは、AIROの坂井研究員より、「「世界の工場」ASEANの発展とタイの港湾政策～世界経済を支えるASEANにおける港湾の役割～」と題して研究発表を行います。

製造業を中心にASEANへの生産拠点の集積が進み、いまやASEANは「世界の工場」として国際的なサプライチェーンを支える重要な役割を担っています。

本日のコロキウムでは、坂井研究員より、ASEANへの生産拠点の展開やASEANを取り巻く貿易環境の変化とともに、昨今の世界のチョークポイントの動向やCOVID-19に伴う影響など、海上物流を取り巻く変化についてご紹介します。また、AIROが所在するタイに焦点を当てて、国内産業を支える基盤インフラとしての港湾の役割について、タイの港湾の現状や課題を報告するとともに、日本の港湾政策へのヒントについてもお話いたします。

次に、拓殖大学の松田琢磨教授より、COVID-19以降の海上輸送で表面化した課題やASEAN各国の港湾などについてコメントをいただきます。松田教授は、2007年から2020年まで、公益財団法人日本海事センターの研究者として国際海運・物流や海事産業の研究で多くの優れた業績を挙げられ、現在も同センターの客員研究者として研究を続けておられます。

その後、当研究所の山内所長をモデレーターとしてディスカッション、その後、質疑応答を予定しております。

当研究所及びAIROでは、今月10日に、第1回「AIROビジネスセミナー」として、「ASEAN航空市場の現状と今後」というテーマで新しいコンセプトのセミナーを開催し、また年明けにはこのバンコクレポートスタートアップシリーズの第4弾として、ASEANの「鉄道」について取り上げることにしています。今後とも、ASEAN及び南アジアを中心として、人やモノの移動・輸送や観光、その他関連する最新の動向について、いろいろな形で質の高い研究調査や情報発信に努めるつもりです。

最後に、本日のコロキウムにご参加いただきました皆様にとりまして、真に有益なものとなることを期待し、併せて、今年1年間皆様から当研究所の活動に対しまして多大なるご指導・ご協力を賜りましたことに感謝申しあげまして、私のご挨拶といたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。